

要 覧



水産試験場 本館



漁業無線局



内水面支場 研究棟



茨城県水産試験場

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/suishi/>

沿革

明治 33 年（1900 年）に磯浜町（現大洗町）に設置され、調査や指導業務、水産教育などを行ってきた。その後、組織の再編・統廃合、施設の移転等を経て、昭和 44 年（1969 年）に現在地（ひたちなか市）に移り、昭和 57 年（1982 年）に栽培漁業センター（平成 8 年（1996 年）に栽培技術センターに改称）を設置、昭和 59 年（1984 年）に水産加工研究所を統合、平成 6 年（1994 年）に水産加工実験棟を設置、平成 11 年（1999 年）に漁業無線局を統合した。

一方、内水面支場は、水産試験場の支場として明治 34 年（1901 年）に手野養魚場（土浦市）として開設、その後霞ヶ浦北浦水産事務所に編入されたが、昭和 43 年（1968 年）に内水面水産試験場として行方郡玉造町（現行方市）に独立した。

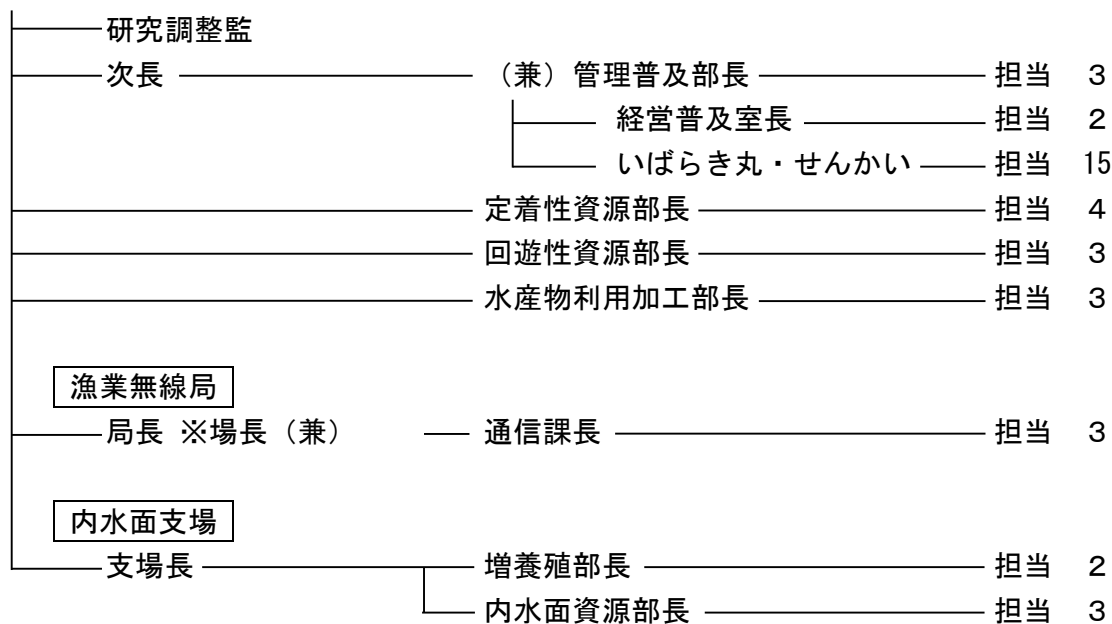
平成 23 年（2011 年）4 月に水産試験場と内水面水産試験場が統合され、管理普及部、定着性資源部、回遊性資源部、水産物利用加工部の海面部門 4 部と漁業無線局および内水面支場の増養殖部、内水面資源部の 6 部 1 局体制となった。

平成 23 年（2011 年）に、現在地において本場本館が建て替えられた。

令和2年（2020年）に、高度化する研究手法や新たな研究ニーズに対応するため、内水面支場において、新たに「研究棟」と「魚類飼育実験棟」を整備した。

組織概要

場 長



計 49 名

(令和8年4月現在)

施設概要

○本 場

本 館

敷地：9,847.6 m²

建物：鉄筋コンクリート造 2階建 延床面積 1,371.04 m²

主な施設：簡易測定室、資源生態実験室、生化学・物性検査室、細菌検査室ほか

水産加工実験棟

建物：鉄筋コンクリート造 2階建 延床面積 552.4 m²

主な施設：調理室、原魚処理室、検査室

栽培技術施設

敷地：5,322 m²

主な施設：魚類飼育棟、飼育作業棟、飼育池

漁業調査指導船

いばらき丸：224 トン、平成 15 年 3 月 31 日竣工

主な装備：GPS 電子海図、ハイブリッド航法装置、計量魚群探知機、超音波式潮流計、スキャンマー付トロール装置、海底地形解析装置、多段式開閉ネット、表層連続観測装置等

せんかい：4.9 トン、平成 31 年 3 月 20 日竣工

主な装備：レーダー、サテライトコンパス、魚群探知機、潮流計、CTD ウインチ、ボールローラー等

○漁業無線局

敷地：10,000 m²

建物：鉄筋コンクリート造 平屋建 延床面積 398.4 m²

○内水面支場

研究棟

敷地：43,244.3 m²

建物：重量鉄骨造 2階建 延床面積 604.30 m²

主な施設：魚類測定室、分子生物学実験室、クリーンルーム

魚類飼育実験棟

建物：重量鉄骨造 平屋建 延床面積 864.00 m²

主な施設：大型水槽ゾーン、水槽試験ゾーンほか

その他の施設・装備

魚病指導総合センター、種苗生産施設、養魚池、養殖試験用栈橋

調査船おおとり（2.6 トン、令和 2 年 3 月 26 日竣工）



水産加工実験棟



いばらき丸



せんかい



漁業無線局 通信卓



魚類飼育実験棟



おおとり

中期運営計画（抜粋）

本県水産業をとりまく社会情勢の変化に対応し、茨城県総合計画（2026～2029）の基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現を目指す試験研究を推進するため、「第4期水産試験場中期運営計画（2026～2029）」を策定し、以下の4つの重点推進事項を柱とする研究を進めます。

- 急激な海況変化を的確にとらえ持続的な漁業を行うための研究（海面）
- 急激な環境変動に対応した持続的な内水面漁業を行うための研究（内水面）
- 変化に動じることのない養殖業を行うための研究と魚類防疫対策研究
- 本県水産物が高い支持を受けるための水産物利用加工研究

研究業務以外に、研究成果の広報・伝達や技術指導業務、漁業者活動の支援のための水産業改良普及指導業務、操業の安全確保・効率化のための漁業無線業務を行っています。

また、人工衛星からの水温情報の提供や「漁海況速報」、「水産の窓」、「内水面支場 News」、「アユ遡上速報」等の発行等を行っています。

業務概要

管理普及部（経営普及室含む）

- 水産試験場全体の運営に関わる全般的な業務（施設管理や経理など）
- 漁業調査船の維持管理、調査スケジュールの調整等
- 調査・研究に関する情報の発信、国や大学等の研究機関との共同研究や連携の調整
- 水産試験場の調査・研究成果の指導普及や、漁業経営改善に関する支援制度の活用をサポート
- 試験研究や行政施策へ反映させるため漁家の経営リサーチやニーズを調査
- 水産業の関係機関と連携して次世代の「漁業生産の担い手」を育成



青年・女性漁業者交流大会



漁業士認定講座



海洋高校生のいばらき丸体験乗船

本 場

定着性資源部

○ヒラメ、カレイ、メヒカリ、イカ・タコ類等の底魚資源の生態・資源利用に関する研究

○岩礁域に生息するアワビ等の生態・資源利用に関する研究

○砂浜海岸に生息する二枚貝（鹿島灘はまぐり・ホッキガイ等）の生態・資源利用に関する研究

○深海性エビ類の陸上養殖技術開発



底びき網調査（いばらき丸）



ヒゴロモエビの飼育試験

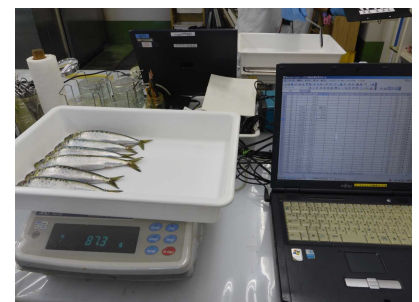
回遊性資源部

○浮魚類（サバ・イワシ等）の資源生態に関する研究
および漁況予測情報の発信等による効率的な操業支援

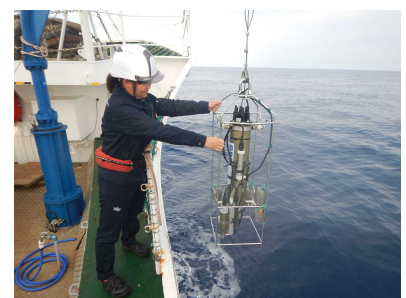
○船びき網対象種（シラス・コウナゴ・ツノナシオキアミ）の漁況予測の精度向上や ICT 技術を活用した迅速な情報発信に関する研究

○茨城県沖の海洋環境および漁場形成に影響する海況予測精度向上に関する研究

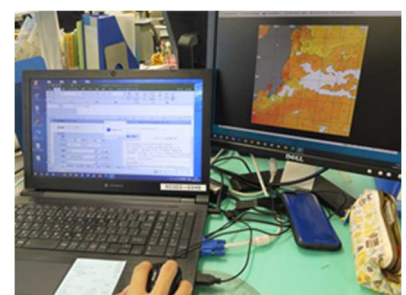
○県内各市場における水揚げ状況把握を目的とした漁獲情報システムの運用



マイワシの魚体測定



海洋観測調査（いばらき丸）



シラスの漁況予測研究

水産物利用加工部

○シラス干しの品質・鮮度を向上させる研究
およびブランド化のための研究

○新たな流通・消費拡大のために地魚の生食用
凍結品等の開発研究、地魚の旬を解明する
研究

○干物類など水産加工品の品質向上技術の開発

○県内水産加工業者等に対する新製品開発や
品質管理についての支援・技術相談



高速液体クロマトグラフによる鮮度分析



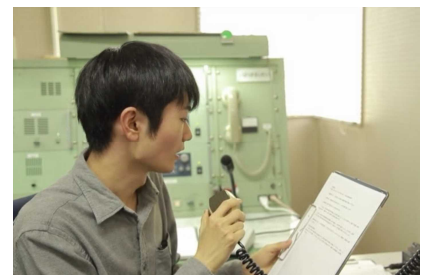
漁業者向け技術講習会

漁業無線局

通信課

○無線通信業務

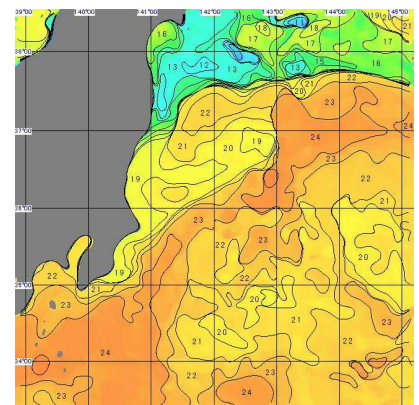
県内漁協所属の漁船、調査船、練習船との
無線通信による各種情報（気象情報、船舶
の安全に関する情報、操業に関する情報等）
の送受信



無線通信業務

○水産試験場の試験研究広報業務

漁海況速報等の漁海況関連情報収集並びに
発行、人工衛星により撮影された海水表層
水温情報や植物性プランクトンの分布情報
等のデータ解析及び画像作成、水産試験場
ホームページへの各種情報掲載



人工衛星による海面水温画像

内水面支場

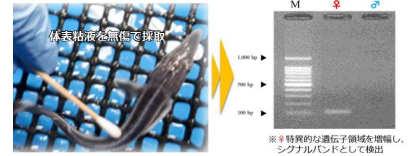
増養殖部

○霞ヶ浦・北浦の網いけす養殖業に資するコイ性成熟コントロール技術等の新規養殖技術開発



コイの網いけす養殖

○チョウザメ類養殖業に資するキャビア生産効率化に向けた若齢魚での性判別技術等の開発



チョウザメ類の早期性判別技術

○アユ等の在来有用魚種の増殖に資する産卵場造成技術の開発・改良および普及



重機を活用したアユの産卵場造成

内水面資源部

○霞ヶ浦北浦の主要魚種であるワカサギ、シラウオ、テナガエビ等の資源変動要因の究明および資源回復・管理対策に関する研究



霞ヶ浦におけるワカサギ資源調査

○久慈川や那珂川等のアユ資源のモニタリング



河川における天然アユ調査

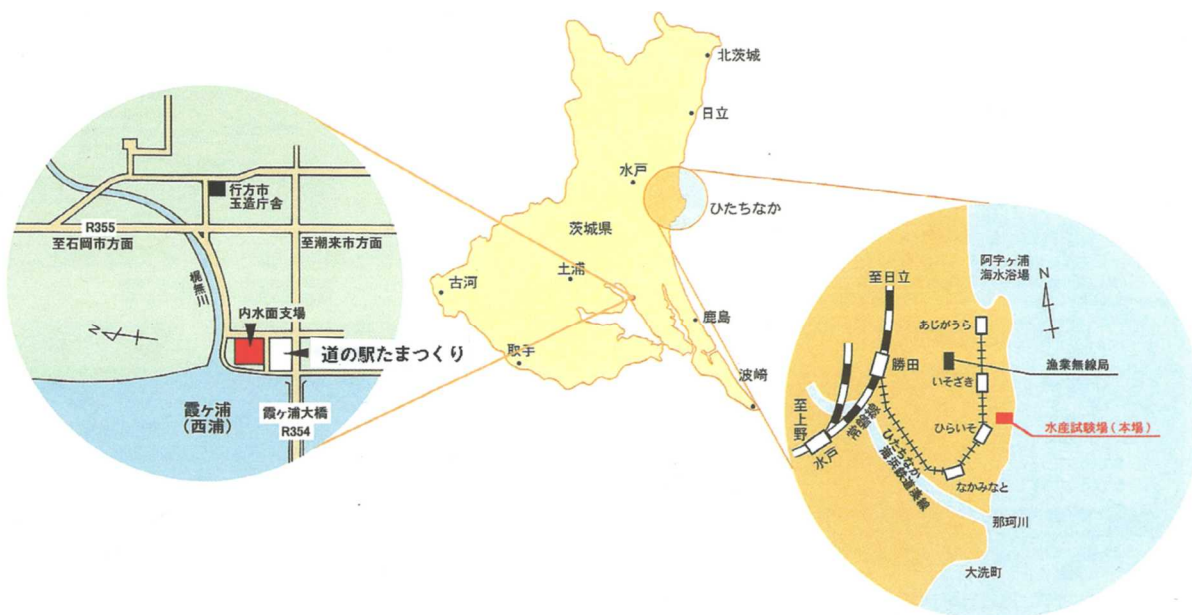
○霞ヶ浦北浦の動物プランクトンやベントス類等主要魚種の餌料環境に関する研究

○水産有用資源に影響を及ぼすチャネルキャットフィッシュやコクチバス等の外来魚の調査および駆除手法に関する研究



稚魚ネットによる外来魚の出現動向調査

交通案内



所在地等

本場

〒311-1203

茨城県ひたちなか市平磯町三ツ塚 3551-8

電話 029-262-4158 FAX 029-263-2058

E-mail : suishi@pref.ibaraki.lg.jp

漁業無線局

〒312-0005

茨城県ひたちなか市新光町 51

電話 029-273-7911 FAX 029-270-1480

E-mail : jha@giga.ocn.ne.jp

内水面支場

〒311-3512

茨城県行方市玉造甲 1560 番地

電話 0299-55-0324 FAX 0299-55-1787

E-mail : suishiken2@pref.ibaraki.lg.jp